

教育学部(学校教育教員養成課程・音楽・美術・保健除く)・人文社会科学部(社会学科・言語文化学科)、
地域創造学環(選抜方法A)

1 現代文

問一 ア 滑 イ 不穩 ウ 家畜 エ 履歴 オ 迅速

問二 私と人間ならざるものを含む他者たちの断片(二〇字)

問三 人間のありようを方向づけ、他者や自然との関係を秩序づける規範を含まない点で、人類学的なサブスタンスコードとは異なるが、コード化された遺伝情報を内包し、他種の生物間で移動する物質である点で、「サブスタンスコード」といえる。

問四 幻想

問五 他者のサブスタンスコードを摂りこむことで生成するとともに変容し、自己の一部を放出することにつながりの中に拡散していくような、人間の本来のあり方を示す概念。

問六 危険な力と豊饒な力を併せ持つ他者との関係において、他者との接触や物のやりとりがもたらしうる危険を避けつつ、他者の豊饒な力を受け取るという役割。

問七 仲の良い友人の口癖が知らない間に移っていたり、憧れている先輩の考え方の影響を無意識のうちに受けていたりすることがあるように、自他の境界とは決して強固なものではなく、私たちは常に他者の影響にさらされた存在である。自己とは、近代的個人という言葉が想定しているような自立した単一の存在として捉えられるのではなく、他者との相互関係において形成され、絶えず変容し続けている存在だと言えるのではないか。(一九六字)

2 古文

問一 A ほんのしばらくのこと

B 住み慣れたところ

C 庵を作る

問二 高貴な身分の方がお亡くなりになっていることも多く耳に入る。まして亡くなった人々の中で取るに足りない身分の人々は、数え尽してすべてを知ることができない。

問三 (作品名) エ

(理由) 本文に、「ほど狭しといへども、夜臥す床あり、昼ゐる座あり。一身を宿すに不足なし」と、その「身のために」作った庵は狭いが一人で暮らすのに何の不足もないとあり、作者の暮らしぶりが読み取れる。よってこの文章は、鴨長明が一丈四方の狭い庵で記した随筆「方丈記」の一節であると判断できる。

3 漢文

問一 池に浮かぶ蓮の花は清らかではあるが情趣に欠ける

問二 唯だ牡丹のみ真の国色有り

問三 牡丹の花が咲く季節になると、美しい牡丹の花を見ようとするとする人々で長安中が大騒ぎになる。